



ш. \forall

 α

1

 \forall

 α

1

 \forall α

1

 \forall

 \simeq

 \forall

 \simeq

 \forall α

 α

1

 \triangleleft α

2

ī

 α

T

MidoNet クイック スタート ガイド RHEL 7 / Kilo (RDO)

5.0-SNAPSHOT (2015-11-26 07:25 UTC) 製作著作 © 2015 Midokura SARL All rights reserved.

概要

MidoNetは、Infrastructure-as-a-Service (IaaS)のためのネットワーク仮想化ソフトウェアです。

これにより、ネットワークハードウェアとIaaSクラウドを切り離すことができ、ホストと物理ネット ワークの間に、インテリジェントなソフトウェア抽象レイヤーを作成することができます。

このガイドでは、MidonetとOpenStackを使用するために必要な最小限のインストールと設定の手順を 説明しています。



注意

この文書はドラフトです。それは、関連する情報が欠落しているか、テストされていな い情報が含まれていることができる。 ご自身の責任でそれを使用してください。



注記

援助を必要とする場合は、 MidoNetメーリングリストやチャット までご連絡ください。

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

DRAFT

1

DRAFT

I

DRAFT

1

DRAFT

1

DRAFT

1

DRAF

1

DRAFT

1

DRAFT

1

DRAFT

1

DRAFT

I

目次

は	じめに	i۷
	表記規則	i۷
1.	アーキテクチャ	1
	ホストとサービス	2
2.	環境の基本構成	4
	ネットワークの構成	4
	SELinuxの構成	4
	レポジトリの構成	4
3.	OpenStackのインストール	6
	アイデンティティサービス (Keystone)	6
	コンピュートサービス (Nova)	6
	ネットワーキングサービス(Neutron)	7
4.	MidoNetのインストール	11
	NSDBノード	11
	コントローラノード	14
	Midolman のインストール	15
	MidoNetのホストの登録	17
5.	ネットワークの初期設定	18
6.	BGP アップリンク構成	19
7.	高度な手順	22

ш \triangleleft \simeq

RA

1

Ø

 α

1

 \triangleleft

 \simeq

1

ш. \triangleleft \simeq

Ø \simeq

1

느 \triangleleft α

1

<u>.</u> \triangleleft α

1

 \forall DR/

Τ

 \forall α

Τ

はじめに

表記規則

MidoNet のドキュメントは、いくつかの植字の表記方法を採用しています。

注意

注意には以下の種類があります。



注記

簡単なヒントや備忘録です。



重要

続行する前に注意する必要があるものです。



警告

データ損失やセキュリティ問題のリスクに関する致命的な情報です。

コマンドプロンプト

\$ プロンプト

root ユーザーを含むすべてのユーザーが、\$プロンプトから始まるコマンドを実行 できます。

プロンプト

root ユーザーは、# プロンプトから始まるコマンドを実行する必要があります。利 用可能ならば、 これらを実行するために、sudo コマンドを使用できます。

ш. \forall α 1

ш.

 \forall α

 \forall α

 \forall

 Δ

ш. \forall α

 \forall

 \simeq

ш. \triangleleft

 α

1

ш.

< α

1

ш

 \triangleleft α

ш < α

Τ

第1章 アーキテクチャ

目次

ホストとサービス 2

このガイドでは、次のシステムアーキテクチャ例を想定しています。

OpenStack コントローラノード:

・ コントローラノード (controller)

コンピューティングノード

・ コンピューティングノード (compute1)

MidoNet は分散システムであるため、デフォルトの OpenStack ネットワークプラグ インで使用されるようなネットワークノードの概念がありません。その代わりに、 Quagga を利用する複数のゲートウェイノードを使用して、ボーダーゲートウェイプ ロトコル(BGP)を介して外部ネットワークに接続します。

- ゲートウェイノード 1 (gateway1)
- ゲートウェイノード 2 (gateway2)

ZooKeeper と Cassandra を利用する 3 個以上のホストを MidoNet Network State Database (NSDB) クラスタに使用して、仮想ネットワークトポロジと接続状態情報を 保存します。

- NSDB ノード 1 (nsdb1)
- NSDB ノード 2 (nsdb2)
- NSDB ノード 3 (nsdb3)



重要

理想としては、ZooKeeper トランザクションログと Cassandra データ ファイルの両方に独自の専用ディスクを使用し、ホストのその他のサービ スには別のディスクを使用すべきです。ただし、小規模な POC と小規模 展開の場合は、Cassandra ディスクをその他のサービスと共有しても問題 ありませんが、Zookeeper トランザクションログは独自のディスクに記録 してください。

仮想トポロジへのトラフィックの出入り口となるすべてのノードには、MidoNet Agent (Midolman) をインストールする必要があります。このガイドで は、controller、gateway1、gateway2、compute1 の各ホストがこのノードに相当し ます。

Midonet Cluster は別のホストにインストールできますが、このガイドでは controller ホストにインストールすることを想定しています。

Midonet Command Line Interface (CLI) は、MidoNet Cluster に接続している、い ずれのホストにもインストールできます。このガイドでは、controller ホストにイ ンストールされていることを想定しています。

AFT

Τ

 \Box

 \triangleleft α

 \forall

 α

 \forall α

 \forall α

Ø

 \simeq

Ø

 \simeq

1

 α

1

 α

1

2

1

Τ

Midonet Neutron Plugin は ML2 プラグインを置き換えるものであり、controller にインストールする必要があります。

ホストとサービス

コントローラノード (controller)

- 一般
 - ・ データベース (MariaDB)
 - ・メッセージブローカー (RabbitMQ)
- OpenStack
 - アイデンティティサービス (Keystone)
 - ・ イメージサービス (Glance)
 - ・コンピュート (Nova)
 - ・ ネットワーキング (Neutron)
 - Neutron Server
 - DHCP Agent
 - Metadata Agent
 - ・ ダッシュボード (Horizon)
- MidoNet
 - Cluster
 - CLI
 - Neutron Plugin

コンピュートノード (compute1)

- OpenStack
 - ・コンピュート (Nova)
 - ・ ネットワーキング (Neutron)
- MidoNet
 - ・エージェント (Midolman)

NSDB $\mathcal{I} - \mathcal{F}$ (nsdb1, nsdb2, nsdb3)

- Network State Database (NSDB)
 - ・ ネットワークトポロジ (ZooKeeper)
 - ネットワークステート情報 (Cassandra)

RAFT

 \Box

1

DRAFT

1

AFT

DR/

1

RAI \bigcirc 1

RAFT

1

DRAI

1

 \vdash RAI

1

 \vdash

DRA

1

DRAFT

1

DRAFT

I

ゲートウェイノード (gateway1, gateway2)

- BGP Daemon (Quagga)
- MidoNet
 - ・ エージェント (Midolman)

RAF

1

RA

RA

1

DRA

 \forall

 \simeq

RA

1

 \vdash

RA

1

RA

1

L

T

第2章 環境の基本構成

目次

ネットワークの構成	4
SELinuxの構成	4
レポジトリの構成	4

ネットワークの構成



重要

すべてのホスト名はDNSまたはローカルで解決できる必要があります。

このガイドでは、OpenStackのドキュメントの下記にある指示に従っていることを前提としています。

OpenStack Networking (neutron)

SELinuxの構成



重要

このガイドはSELinux(インストール済みの場合)が`permissive`または `disabled`のいずれかのモードであることが前提となります。

モードを変更する場合は、次のコマンドを実行します。

setenforce Permissive

SELinuxの構成を恒久的に変更する場合は、/etc/selinux/config ファイルを適宜変更してください。

SELINUX=permissive

レポジトリの構成

必要なソフトウェアレポジトリを構成して、インストールしたパッケージを更新します。

1. Red Hatベースレポジトリを有効にする

subscription-manager repos --enable=rhel-7-server-rpms

2. 追加のRed Hatレポジトリを有効にする

subscription-manager repos --enable=rhel-7-server-extras-rpms
subscription-manager repos --enable=rhel-7-server-optional-rpms

3. レポジトリの優先順位付けを有効にする

yum install yum-plugin-priorities

AF

 α

 \forall

 α

 \forall

 α

 \forall

 \simeq

 \forall

 \simeq

 \forall

 α

 α

 α

1

Τ

ī

4. EPELレポジトリを有効にする

yum install http://dl.fedoraproject.org/pub/epel/7/x86_64/e/epel-release-7-5.noarch.
rpm

5. RDOレポジトリを有効にする

yum install http://rdo.fedorapeople.org/openstack-kilo/rdo-release-kilo.rpm

6. DataStaxのレポジトリを有効にする

/etc/yum.repos.d/datastax.repo ファイルを作成し、修正して次を含めます。

```
# DataStax (Apache Cassandra)
[datastax]
name = DataStax Repo for Apache Cassandra
baseurl = http://rpm.datastax.com/community
enabled = 1
gpgcheck = 1
gpgkey = https://rpm.datastax.com/rpm/repo_key
```

1. MidoNetレポジトリを有効にする

/etc/yum.repos.d/midonet.repo ファイルを作成し、修正して次を含めます。

```
[midonet]
name=MidoNet
baseurl=http://builds.midonet.org/midonet-5/stable/el7/
enabled=1
gpgcheck=1
gpgkey=http://builds.midonet.org/midorepo.key
[midonet-openstack-integration]
name=MidoNet OpenStack Integration
baseurl=http://builds.midonet.org/openstack-kilo/stable/el7/
enabled=1
gpgcheck=1
gpgkey=http://builds.midonet.org/midorepo.key
[midonet-misc]
name=MidoNet 3rd Party Tools and Libraries
baseurl=http://builds.midonet.org/misc/stable/el7/
enabled=1
gpgcheck=1
gpgkey=http://builds.midonet.org/midorepo.key
```

2. 使用可能なアップデートをインストールする

```
# yum clean all
# yum upgrade
```

3. 必要に応じて、システムを再起動する

reboot

RAF

1

RA

RA

 \forall

 \simeq

RA

RA

 \triangleleft

 α

1

RA

1

AF

 α

Τ

ī

第3章 OpenStackのインストール

目次

アイデンティティサービス (Keystone)	6
コンピュートサービス (Nova)	6
ネットワーキングサービス (Neutron)	



重要

OpenStack Kilo Installation Guide for Red Hat Enterprise Linux 7 に従ってください。ただし、次の相違点に注意してください。

アイデンティティサービス (Keystone)



重要

OpenStack文書の Chapter 3. Add the Identity service の指示に従ってください。ただし、次の相違事項と追加事項に注意してください。

1. 動作の確認

ステップ1の「セキュリティ上の理由で、一時的な認証トークンメカニズムを無効にする」を適用しないでください。

MidoNet APIは、認証のためにキーストーン管理トークンを使用しますので、admin token auth は対応する構成セクション内に保持する必要があります。

2. MidoNet APIサーバーを作成する

Keystoneの admin として、以下のコマンドを実行します。

\$ openstack service create --name midonet --description "MidoNet API Service" midonet

3. MidoNet管理ユーザーを作成する

Keystoneの admin として、以下のコマンドを実行します。

\$ openstack user create --password-prompt midonet

\$ openstack role add --project service --user midonet admin

コンピュートサービス (Nova)



重要

OpenStack文書の Chapter 5. Add the Compute service の指示に従ってください。ただし、次の相違点に注意してください。

コントローラノード



注記

OpenStack文書の Install and configure controller node の指示にその まま従います。

AF

 α

1

RA

RA

RA

 \forall

 \simeq

RAF

ш.

RA

 \triangleleft

 α

1

2

Τ

 α

T

コンピュートノード



重要

OpenStack文書の Install and configure a compute node 指示に従います。ただし、次の追加事項に注意してください。

1. libvirtを構成する

/etc/nova/nova.conf ファイルを修正して次を含めます。

```
user = "root"
group = "root"

cgroup_device_acl = [
        "/dev/null", "/dev/full", "/dev/zero",
        "/dev/random", "/dev/urandom",
        "/dev/ptmx", "/dev/kvm", "/dev/kqemu",
        "/dev/rtc", "/dev/hpet", "/dev/vfio/vfio",
        "/dev/net/tun"
]
```

2. libvirtサービスを再開する

systemctl restart libvirtd.service

3. nova-rootwrapネットワークフィルタをインストールする

yum install openstack-nova-network
systemctl disable openstack-nova-network.service

4. コンピュートサービスを再開する

systemctl restart openstack-nova-compute.service

ネットワーキングサービス (Neutron)



重要

OpenStack文書の Chapter 6. OpenStack Networking (neutron) の指示に従ってください。ただし、次の相違点に注意してください。

コントローラノード



重要

OpenStack文書の Install and configure controller node 指示に従います。ただし、 次の相違事項と追加事項に注意してください。

1. 前提条件を設定する場合

このまま適用します。

2. ネットワーキングのコンポーネントをインストールする場合

適用*しないで*ください。

代わりに、次のパッケージをインストールします。

yum install openstack-neutron python-neutron-plugin-midonet

ш.

RA

1

RA

 \triangleleft

 α

 \forall

 Δ

 \forall

 α

RA

 α

<

 α

 α

L

ī

3. ネットワーキングのサーバーコンポーネントを構成する場合

step 'dを適用*しないで*ください。モジュラーレイヤー2(ML2)プラグイン、 ルーター サービスおよび重複するIPアドレスを有効にします。

代わりに、/etc/neutron/neutron.conf ファイルを変更して、次のキーを [DEFAULT] セクションに設定します。

[DEFAULT]

. . .

core plugin = midonet.neutron.plugin v2.MidonetPluginV2

4. モジュラーレイヤー2 (ML2) のプラグインを構成する場合

適用*しないで*ください。

代わりに、次の手順を実行します。

a. MidoNetプラグインのディレクトリを作成します。

mkdir /etc/neutron/plugins/midonet

b. /etc/neutron/plugins/midonet/midonet.ini ファイルを作成し、修正して次を含めます。

[DATABASE]

sql connection = mysql://neutron:NEUTRON DBPASS@controller/neutron

[MIDONET]

MidoNet API URL

midonet uri = http://controller:8181/midonet-api

MidoNet administrative user in Keystone

username = midonet

password = MIDONET PASS

MidoNet administrative user's tenant

project id = service

c. NeutronをMidoNetの構成に転送するためのシンボリックリンクを作成します。

In -s /etc/neutron/plugins/midonet/midonet.ini /etc/neutron/plugin.ini

5. コンピュートでネットワーキングの使用を構成する場合

このまま適用します。

6. Load-Balancer-as-a-Service (LBaaS) の設定

OpenStackのインストールガイドとともに、「Load-Balancer-as-a-Service (LBaaS) を構成する」 [9]に記載されている、Load-Balancer-as-a-Service (LBaaS) を設定してください。

7. インストールを終了する場合

適用*しないで*ください。

代わりに、次の手順を実行します。

a. データベースを追加します。

su -s /bin/sh -c "neutron-db-manage --config-file /etc/neutron/neutron.conf --config-file /etc/neutron/plugins/midonet/midonet.ini upgrade kilo" neutron

midonet-db-manage upgrade head

AF

1

ш.

RA

ш.

RA

RA

RA

RA

 \forall

 α

 α

1

RA

 α

Τ

 α

ī

b. コンピュートサービスを再開します。

systemctl restart openstack-nova-api.service openstack-nova-scheduler.service openstack-nova-conductor.service

c. ネットワーキングサービスを開始して、システムが起動したら開始するよう設定します。

systemctl enable neutron-server.service

systemctl start neutron-server.service

Load-Balancer-as-a-Service (LBaaS) を構成する



重要

OpenStack ドキュメント Configure Load-Balancer-as-a-Service (LBaaS) の指示に従ってください。ただし、次の違いに注意してください。

1. エージェントをインストールする

適用*しないでください*。

その代わりに python-neutron-lbaas のパッケージをインストールします。

yum install python-neutron-lbaas

2. /etc/neutron/neutron.conf ファイルで service_provider オプションを使用し、HAProxy プラグインを有効にします。

適用*しないでください*。

その代わりに service_provider を次のように設定します。

[service providers]

service_provider = LOADBALANCER:Midonet:midonet.neutron.services.loadbalancer.driver.
MidonetLoadbalancerDriver:default

3. /etc/neutron/neutron.conf ファイルで service_plugins オプションを使用し、 負荷分散プラグインを有効にします。

現状のまま適用します。

4. /etc/neutron/lbaas_agent.ini ファイルで HAProxy ロードバランサーを有効にします。

適用*しないでください*。

5. 必要なドライバーを /etc/neutron/lbaas_agent.ini ファイルで選択します。

適用*しないでください*。

6. 必要なテーブルをデータベースに作成します。

適用*しないでください*。

7. neutron-server サービスと neutron-lbaas-agent サービスを再起動し、設定を適用します。

適用*しないでください*。

 α

1

2

1

Τ

Τ

8. ダッシュボードの Project セクションで負荷分散を有効にします。

現状のまま適用します。

9. インストールをファイナライズするには

Neutron Controller Node Installation の説明に従って、インストールをファイナライズします。

コンピュートノード



重要

OpenStack文書の Install and configure compute node の指示に従います。ただし、次の相違点に注意してください。

1. 前提条件を設定する場合

適用*しないで*ください。

- 2. ネットワーキングのコンポーネントをインストールする場合 適用*しないで*ください。
- 3. ネットワーキング共通のコンポーネントを構成する場合 適用*しないで*ください。
- 4. モジュラーレイヤー2(ML2)のプラグインを構成する場合 適用*しないで*ください。
- Open vSwitch (OVS) サービスを構成する場合
 適用*しないで*ください。
- 6. コンピュートでネットワーキングの使用を構成する場合 このまま適用します。
- 7. インストールを終了する場合

適用*しないで*ください。

代わりに、次のサービスを再開します。

systemctl restart openstack-nova-compute.service

RAF

1

RA

I

RA

 \forall

 \simeq

 \forall

 \simeq

I

RA

 α

1

 \triangleleft

 α

L

ī

第4章 MidoNetのインストール

目次

NSDBノード	
コントローラノード	14
Midolman のインストール	
MidoNetのホストの登録	17

NSDBノード

ZooKeeperのインストール

1. ZooKeeperパッケージをインストールする

yum install java-1.7.0-openjdk-headless
yum install zookeeper zkdump nmap-ncat

- 2. ZooKeeperを構成する
 - a. 共通の構成

/etc/zookeeper/zoo.cfg ファイルを編集して、次のものを含めます。

server.1=nsdb1:2888:3888 server.2=nsdb2:2888:3888 server.3=nsdb3:2888:3888

データのディレクトリを作成します。

mkdir /var/lib/zookeeper/data

chown zookeeper:zookeeper /var/lib/zookeeper/data



重要

実稼動展開では、スナップショットのストレージをコミットログと は別のディスクに構成することをお勧めします。このように設定す るには、zoo.cfg のパラメータ dataDir を別のディスクに変更しま す。

- b. ノード固有の構成
 - i. NSDB ノード 1

/var/lib/zookeeper/data/myid ファイルを作成し、ホストのIDを含めます。

echo 1 > /var/lib/zookeeper/data/myid

ii.NSDB ノード 2

/var/lib/zookeeper/data/myid ファイルを作成し、ホストのIDを含めます。

echo 2 > /var/lib/zookeeper/data/myid

iiNSDB ノード 3

ш.

RA

1

 \forall

 α

I

 \forall

 α

RA

 \forall

 \simeq

 \forall

 α

ш.

RA

ш.

 \triangleleft

 α

1

 \triangleleft

 \simeq

Τ

 α

ī

/var/lib/zookeeper/data/myid ファイルを作成し、ホストのIDを含めます。

echo 3 > /var/lib/zookeeper/data/myid

3. Java Symlinkを作成する

mkdir -p /usr/java/default/bin/
ln -s /usr/lib/jvm/jre-1.7.0-openjdk/bin/java /usr/java/default/bin/java

4. ZooKeeperを有効にして開始する

systemctl enable zookeeper.service
systemctl start zookeeper.service

5. ZooKeeperの動作を確認する

すべてのノードのインストールが完了したら、ZooKeeperが適切に動作するか確認 します。

基本的な検査は、ruok(Are you ok?)コマンドを実行して行えます。サーバーがエラーのない状態で実行している場合は、最初の列に`imok`(I am ok)と返されます。

```
$ echo ruok | nc 127.0.0.1 2181
imok
```

詳細情報が必要な場合は、`stat`コマンドを使用すると、パフォーマンスと接続し ているクライアントの統計が一覧表示されます。

```
$ echo stat | nc 127.0.0.1 2181
Zookeeper version: 3.4.5--1, built on 06/10/2013 17:26 GMT
Clients:
   /127.0.0.1:34768[0](queued=0, recved=1, sent=0)
   /192.0.2.1:49703[1](queued=0, recved=1053, sent=1053)
```

Latency min/avg/max: 0/4/255

Received: 1055
Sent: 1054
Connections: 2
Outstanding: 0
Zxid: 0x260000013d
Mode: follower
Node count: 3647

Cassandraのインストール

1. Cassandraパッケージをインストールする

```
# yum install java-1.7.0-openjdk-headless
# yum install dsc20
```

- 2. Cassandraを構成する
 - a. 共通の構成

/etc/cassandra/conf/cassandra.yaml ファイルを編集して、次のものを含めます。

```
# The name of the cluster.
cluster_name: 'midonet'
```

Τ

ш.

 \forall α

 \forall α

 \forall

 α

 \forall

 \simeq

 \forall \simeq

 \forall \simeq

 \triangleleft α

 \triangleleft α

1

2

ī

< α

ī

. . . # Addresses of hosts that are deemed contact points. seed provider: - class name: org.apache.cassandra.locator.SimpleSeedProvider parameters: - seeds: "nsdb1, nsdb2, nsdb3"

b. ノード固有の構成

i. NSDB ノード 1

/etc/cassandra/conf/cassandra.yaml ファイルを編集して、次のものを含め ます。

```
# Address to bind to and tell other Cassandra nodes to connect to.
listen address: nsdb1
# The address to bind the Thrift RPC service.
rpc_address: nsdb1
```

ii,NSDB ノード 2

/etc/cassandra/conf/cassandra.yaml ファイルを編集して、次のものを含め

```
# Address to bind to and tell other Cassandra nodes to connect to.
listen address: nsdb2
# The address to bind the Thrift RPC service.
rpc_address: nsdb2
```

iiNSDB ノード 3

/etc/cassandra/conf/cassandra.yaml ファイルを編集して、次のものを含め ます。

```
# Address to bind to and tell other Cassandra nodes to connect to.
listen address: nsdb3
# The address to bind the Thrift RPC service.
rpc address: nsdb3
```

3. サービスの init スクリプトを編集する

インストール時に /var/run/cassandra ディレクトリが作成されますが、 一時的 なファイルシステムに配置されるため、システムのリブート後に消失 します。そ の結果、Cassandra サービスの停止や再開ができなくなります。

これを回避するには、/etc/init.d/cassandra ファイルを編集して、サービス の 開始時にディレクトリを作成します。

```
[...]
case "$1" in
   start)
        # Cassandra startup
        echo -n "Starting Cassandra: "
```

ш.

RA

1

RA

I

RA

RA

RA

RAF

ш

RA

1

ш.

RA

ш

 \triangleleft

 α

Τ

RA

ī

```
mkdir -p /var/run/cassandra
      chown cassandra:cassandra /var/run/cassandra
      su $CASSANDRA_OWNR -c "$CASSANDRA_PROG -p $pid_file" > $log_file 2>&1
      retval=$?
[...]
```

4. Cassandraを有効にして開始する

```
# systemctl enable cassandra.service
# systemctl start cassandra.service
```

5. Cassandraの動作を確認する

すべてのノードのインストールが完了したら、Cassandraが適切に動作するか確認 します。



重要

Cassandaデーモンの実行が失敗する場合、ログで「buffer overflow」のエラーメッセージが出たら、 /etc/hosts ファイル内の 127.0.0.1 アドレスからホスト名へのマッピング・エントリーを設定してみて (hostname -i の戻り値が 127.0.0.1 になりますように)、実行エラーの解決が出来るかもしれません。

基本的な検査は、nodetool status コマンドを実行して行えます。 サーバーがエラーのない状態で稼働している場合は、最初の列に UN(Up/Normal)と返されます。

```
$ nodetool -host 127.0.0.1 status
[...]
Status=Up/Down
// State=Normal/Leaving/Joining/Moving
   Address
           Load
                     Tokens Owns
                                  Host ID
                                                                 Rack
            123.45 KB
   192.0.2.1
                     256
                                 11111111-2222-3333-4444-5555555555555
                            33.3%
                                                                 rack1
UN 192.0.2.2 234.56 KB
                     256
                            33.3%
                                 2222222-3333-4444-5555-66666666666
                                                                 rack1
UN 192.0.2.3 345.67 KB 256
```

コントローラノード

MidoNet Clusterのインストール

1. MidoNet Clusterパッケージをインストールする

yum install midonet-cluster

2. mn-conf をセットアップする

/etc/midonet/midonet.conf を編集し、mn-conf を ZooKeeper クラスタにポイントします。

```
[zookeeper]
zookeeper hosts = nsdb1:2181, nsdb2:2181, nsdb3:2181
```

3. NSDB へのアクセスを構成する

この手順は 1 回だけ実行してください。1 回実行すれば、MidoNet Cluster と Agent ノードで NSDB へのアクセスがセットアップされます。

次のコマンドを実行して、Zookeeper と Cassandra のサーバーアドレスにクラウド全体の値を設定します。

ш.

 \triangleleft α

1

 \forall α

 \forall

 α

1

 \forall \simeq

 \forall

 α

 \forall

 \simeq

 α

1

ш. \triangleleft α

 α

Τ

ī

```
$ cat << EOF | mn-conf set -t default
zookeeper {
    zookeeper_hosts = "nsdb1:2181, nsdb2:2181, nsdb3:2181"
cassandra {
    servers = "nsdb1, nsdb2, nsdb3"
E0F
```

次のコマンドを実行して、Cassandra レプリケーション係数を設定します。

\$ echo "cassandra.replication_factor : 3" | mn-conf set -t default

4. Keystone へのアクセスを構成する

この手順は 1 回だけ実行してください。1 回実行すれば、MidoNet Cluster ノー ドで Keystone へのアクセスがセットアップされます。

```
$ cat << EOF | mn-conf set -t default
cluster.auth {
    provider_class = "org.midonet.cluster.auth.keystone.v2_0.KeystoneService"
    admin role = "admin"
    keystone.tenant name = "admin"
    keystone.admin_token = "ADMIN_TOKEN"
    keystone.host = controller
    keystone.port = 35357
E0F
```

5. MidoNet Cluster を起動する

systemctl start midonet-cluster.service

MidoNet CLIのインストール

1. MidoNet CLIパッケージをインストールする

yum install python-midonetclient

2. MidoNet CLIを構成する

~/.midonetrc ファイルを作成し、修正して次を含めます。

```
api url = http://controller:8181/midonet-api
username = admin
password = ADMIN PASS
project id = admin
```

Midolman のインストール

仮想トポロジへのトラフィックの出入り口となるすべてのノードには、MidoNet Agent(Midolman)をインストールする必要があります。このガイドで は、gateway1、gateway2、compute1 の各ノードがこれに相当します。

1. Midolman パッケージをインストールする

```
# yum install java-1.8.0-openjdk-headless
# yum install midolman
```

2. リソース使用の設定

I

ш.

RA

RA

 \forall

 α

RA

О -

 \forall

 \simeq

 \forall

 α

ш.

 \triangleleft

 α

1

AF

 α

1

RAF

Τ

<

 α

ī

リソース使用を設定するために 各エージェントホスト で下記の手順を実行します。



重要

本番環境では large (大) テンプレートを強くお勧めします。

a. Midolman リソーステンプレート

Midolmanリソーステンプレートを設定するためには、次のコマンドを実行します。

\$ mn-conf template-set -h local -t TEMPLATE NAME

TEMPLATE NAME を以下のいずれかのテンプレートに置き換えます。

agent-compute-large agent-compute-medium agent-gateway-large agent-gateway-medium default

b. Java Virtual Machine (JVM) リソーステンプレート

JVMリソーステンプレートを設定するためには、デフォルトの /etc/midolman/midolman-env.sh ファイルを以下のいずれかに置き換えます。

```
/etc/midolman/midolman-env.sh.compute.large
/etc/midolman/midolman-env.sh.compute.medium
/etc/midolman/midolman-env.sh.gateway.large
/etc/midolman/midolman-env.sh.gateway.medium
```

3. すべてのエージェントで MidoNet Metadata Proxy へのアクセスを構成する

この手順は 1 回だけ実行してください。1 回実行すれば、すべての MidoNet Agent ノードで MidoNet Metadata Proxy がセットアップされます。

次のコマンドを実行して、クラウド全体の値を設定します。

```
$ echo "agent.openstack.metadata.nova_metadata_url : \textbf{Y}"http:/
/nova_metadata_host:nova_metadata_port\textbf{Y}" | mn-conf set
$ echo "agent.openstack.metadata.shared_secret : shared_secret" | mn-conf set
$ echo "agent.openstack.metadata.enabled : true" | mn-conf set
```

nova_metadata_host、nova_metadata_port、shared_secret は適切な値に 置きかえてください。これらの値は対応する Nova Metadata API の設定に マッチしている必要があります。

nova_metadata_host と nova_metadata_port には Nova Metadata API が 要求を受け付けるアドレスを指定します。 shared_secret には nova.conf の "neutron" セクション内の "metadata_proxy_shared_secret" フィールドと同じ値を設定してください。

Nova 側の設定は Neutron Metadata Proxy を使用する場合と同じです。 OpenStack のドキュメントを参照してください。

Cloud Administrator Guide: Configure Metadata

4. Midolman を起動する

AΕ

Τ

<

 α

1

RA

 \forall

1

 \forall

 \simeq

 \forall

 \simeq

 \forall

 α

 α

1

<

1

ī

ī

MidoNetのホストの登録

1. MidoNet CLIを起動する

\$ midonet-cli
midonet>

2. トンネルゾーンを作成する

MidoNeはVXLANVirtual (Extensible LAN) およびGRE (Generic Routing Encapsulation) プロトコルサポートしているため、トンネルゾーンで他のホストと通信できます。

VXLANプロトコルを使用するには、「vxlan」と入力してトンネルゾーンを作成します。

midonet> tunnel-zone create name tz type vxlan tzone0

GREプロトコルを使用するには、「gre」と入力してトンネルゾーンを作成します。

midonet> tunnel-zone create name tz type gre tzone0 $\,$



重要

Make sure to allow GRE/VXLAN traffic for all hosts that belong to the tunnel zone. For VXLAN MidoNet uses UDP port 6677 as default.

1. トンネルゾーンにホストを追加する

midonet> list tunnel-zone
tzone tzone0 name tz type vxlan

midonet> list host
host host0 name controller alive true
host host1 name gateway1 alive true
host host2 name gateway2 alive true
host host3 name compute1 alive true

midonet> tunnel-zone tzone0 add member host host0 address ip_address_of_host0

zone tzone0 host host0 address ip_address_of_host0

midonet> tunnel-zone tzone0 add member host host1 address ip_address_of_host1

zone tzone0 host host1 address ip_address_of_host1

midonet> tunnel-zone tzone0 add member host host2 address ip_address_of_host2

zone tzone0 host host2 address ip_address_of_host3

midonet> tunnel-zone tzone0 add member host host3 address ip_address_of_host3

zone tzone0 host host3 address ip_address_of_host3

F \forall α

1

RAI

1

 \triangleleft 2

1

RAI

1

 \triangleleft \simeq

1

 \triangleleft \simeq

I

2

1

H

DRA

1

DRA

1

AFT α

Ι

第5章 ネットワークの初期設定



重要

OpenStack文書の Create initial networks 指示に従います。ただし、次 の相違点に注意してください。

1. 外部ネットワークの作成

外部ネットワークは下記のコマンドで作成します。

\$ neutron net-create ext-net --router:external

AF

RAF

О -

 \forall

DR

DRA

 \forall

DR

RA

 \forall

 α

1

 α

1

RA

1

 α

Τ

 α

T

第6章 BGP アップリンク構成

MidoNet では、外部接続にボーダーゲートウェイプロトコル (BGP) を利用します。

BGP にはスケーラビリティと冗長性があるため、実稼動環境では BGP を使用することを強くお勧めします。

デモ環境や POC 環境では、代わりに静的ルーティングを使用できます。詳しくは、操作ガイドを参照してください。

こちらの手順では、次のサンプル環境を想定しています。

- フローティング IP ネットワーク 1 個
 - 192.0.2.0/24/24
- MidoNet ゲートウェイノード 2 個
 - gateway1、bgp1 に eth1 で接続
 - gateway2、bgp2 に eth1 で接続
- ・ リモート BGP ピア 2 個
 - bgp1、198.51.100.1、AS 64513
 - bgp2、203.0.113.1、AS 64514
- 対応する MidoNet BGP ピア
 - 198.51.100.2 AS 64512
 - 203.0.113.2, AS 64512

次の手順に従って、GBP アップリンクを構成してください。

1. Keystone admin テナント ID を特定する

keystone コマンドを使用して、Keystone admin テナント ID を特定します。

\$ keystone tenant-list		1
id	name	enabled
12345678901234567890123456789012	admin	True

2. MidoNet CLI を起動し、MidoNet プロバイダルーターを検索する

\$ midonet-cli
midonet-cli>

MidoNet プロバイダルーターはテナントと関連付けられていないため、最初にアクティブテナントをクリア(cleart)する必要があります。

midonet-cli> cleart
midonet-cli> router list
router router0 name MidoNet Provider Router state up
router router1 name Tenant Router state up infilter chain0 outfilter chain1

この例の場合、MidoNet プロバイダルーターは router0 です。

AF

 α

1

RA

 \forall

 α

 \forall

 \simeq

 \forall

 α

RA

RA

1

 α

Τ

ī

3. admin テナントをロードする

構成をさらに続ける前に、admin テナントを設定(sett)する必要があります。上 記の Keystone から取得した ID を使用してください。

midonet-cli> sett 12345678901234567890123456789012 tenant id: 12345678901234567890123456789012

4. BGP セッション用の仮想ポートを作成する

リモート BGP ピアごとに、BGP 通信に使用するポートを MidoNet プロバイダルーター上に作成します。

midonet> router router0 add port address 198.51.100.2 net 198.51.100.0/30 router0:port0

midonet> router router0 add port address 203.0.113.2 net 203.0.113.0/30 router0:port1

midonet> router router0 port list port port0 device router0 state up mac ac:ca:ba:11:11:11 address 198.51.100.2 net 198.51.100.0/30 port port1 device router0 state up mac ac:ca:ba:22:22:22 address 203.0.113.1 net 203.0.113.0/30

[...]

この例で作成されたポートは、port0 と port1 です。

5. 仮想ポートで BGP を構成する

midonet> router router0 set asn 64512
midonet> router router0 add bgp-peer asn 64513 address 198.51.100.1
router0:peer0
midonet> router router0 list bgp-peer
peer peer0 asn 64513 address 198.51.100.1
midonet> router router0 add bgp-peer asn 64514 address 203.0.113.1
router0:peer1
midonet> router router0 list bgp-peer
peer peer0 asn 64513 address 198.51.100.1
peer peer1 asn 64514 address 203.0.113.1

6. Add routes to the remote BGP peers

In order to be able to establish connections to the remote BGP peers, corresponding routes have to be added.

midonet> router router0 route add src 0.0.0.0/0 dst 198.51.100.0/30 port router0:port0 type normal router0:route0

midonet> router router0 route add src 0.0.0.0/0 dst 203.0.113.0/30 port router0:port1 type normal router0:route1

7. BGPルートをアドバタイズする

ホストされている仮想マシンが外部接続できるようにするため、フローティング IP ネットワークを BGP ピアにアドバタイズする必要があります。

midonet> router router0 add bgp-network net 192.0.2.0/24 router0:net0

Τ

ī

midonet> router router0 list bgp-network net net0 net 192.0.2.0/24

8. 仮想ポートを物理ネットワークインターフェースにバインドする

MidoNet プロバイダルーターの仮想ポートをゲートウェイノードの物理ネットワークインターフェースにバインドします。



重要

物理インターフェースの状態が UP になっていて、IP アドレスが割り 当てられていないことを確認してください。

a. MidoNet ホストをリストし、ゲートウェイノードを検索します。

midonet> host list host host0 name gateway1 alive true host host1 name gateway2 alive true [...]

この例のホストは host0 と host1 です。

b. ゲートウェイノードの物理インターフェースをリストします。

midonet> host host0 list interface
[...]
iface eth1 host_id host0 status 3 addresses [] mac 01:02:03:04:05:06 mtu 1500 type
Physical endpoint PHYSICAL
[...]
midonet> host host1 list interface
[...]
iface eth1 host_id host0 status 3 addresses [] mac 06:05:04:03:02:01 mtu 1500 type
Physical endpoint PHYSICAL
[...]

c. 物理ホストインターフェースを MidoNet プロバイダルーターの仮想ポートにバインドします。

midonet> host host0 add binding port router0:port0 interface eth1
host host0 interface eth1 port router0:port0
midonet> host host1 add binding port router0:port1 interface eth1
host host1 interface eth1 port router0:port1

d. ステートフルポートグループを構成します。

midonet-cli> port-group create name uplink-spg stateful true pgroup0

e. ポートをポートグループに追加します。

midonet> port-group pgroup0 add member port router0:port0
port-group pgroup0 port router0:port0
midonet> port-group pgroup0 add member port router0:port1
port-group pgroup0 port router0:port1

midonet> port-group pgroup0 list member port-group pgroup0 port router0:port0 port-group pgroup0 port router0:port1

RAFT

RAF

 \triangleleft \simeq

1

RAI

1

RAI

1

DRAI

I

RAI

1

H

DRA

1

DRA

1

DRAFT

I

第7章 高度な手順

OpenStackへのMidoNetのインストールと設定が完了しました。



注記

Midonetの運用に関する詳細については、「MidoNet 運用 ガイド」を参照 してください。